平成24年度
中学校版

光村 国語デジタル教科書 実践活用ガイド

目次

■デジタル教科書　活用のポイント・・・・・・・・2

■実践事例

・1年　友達をみんなに紹介しよう（話すこと・聞くこと）・・・・・8
・1年　シカの「落穂拾い」（説明文）・・・・・・・・・・・・10
・1年　蓬莱の玉の枝（古典）・・・・・・・・・・・・・・・12
・1年　少年の日の思い出（文学）・・・・・・・・・・・・・14
・1年　文法への扉2（文法）・・・・・・・・・・・・・・・16
・2年　字のない葉書（文学）・・・・・・・・・・・・・・・18
・2年　君は「最後の晩餐」を知っているか（説明文）・・・・・・20
・2年　扇の的（古典）・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
・2年　文法への扉1（文法）・・・・・・・・・・・・・・・24
・3年　月の起源を探る（説明文）・・・・・・・・・・・・・26
・3年　文法への扉1（文法）・・・・・・・・・・・・・・・28

■よくある質問Q&A

・著作権について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
・使い方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

画面の基本構成と主な機能

共通機能：どの教材でも共通して使用できます。

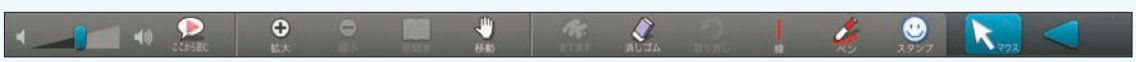
- **終了ボタン**
  「国語デジタル教科書」を終了します。
- **目次ボタン**
  目次画面を表示します。
- **印刷ボタン**
  表示されている画面を印刷します。
- **フルスクリーンボタン**
  画面のフルスクリーン表示とウインドウ表示を切り替えます。

表示機能：教材によって表示されるボタンが異なります。

- **脚注/参考資料ボタン**
  脚注語句のマーキングや参考資料のボタンを表示します。
- **段落ボタン**
  読むこと教材（説明文）の形式段落を数字で表示します。
- **場面ボタン**
  読むこと教材（文学）の場面を，囲み線と数字で表示します。

① インジケーター：クリックします，見たいページを表示します。

② ツールボタン：書き込み，移動・拡大，朗読などの機能を搭載したツールバーを表示します。



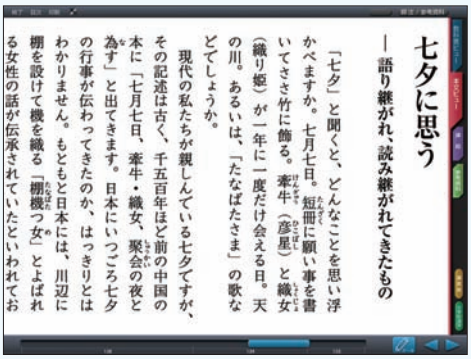
③ ページ送り：右のボタンで前ページを，左のボタンで次ページを表示します。

活用ポイント

教科書ビュー

教科書の紙面と同じ画面を表示します。

本文ビュー



本文を拡大して表示します。

挿絵ウインドウ

挿絵を拡大して表示します。

参考資料ウインドウ

教材に即した資料を表示します。

道具箱

授業に便利な5つの機能を搭載しています。

小学校漢字ウインドウ

小学校で学習した漢字を表示します。（1/2年）

国語デジタル教科書でできること

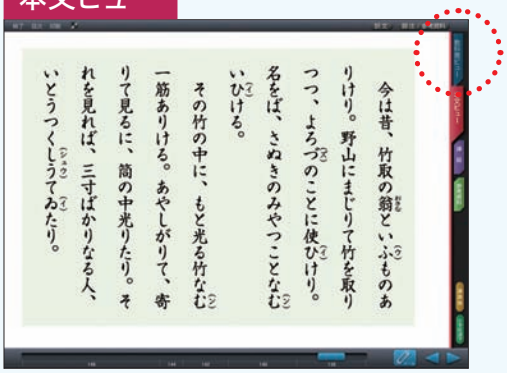
1 教科書ビューから他の画面をすぐに呼び出せます。

教科書ビュー

挿絵ウインドウ

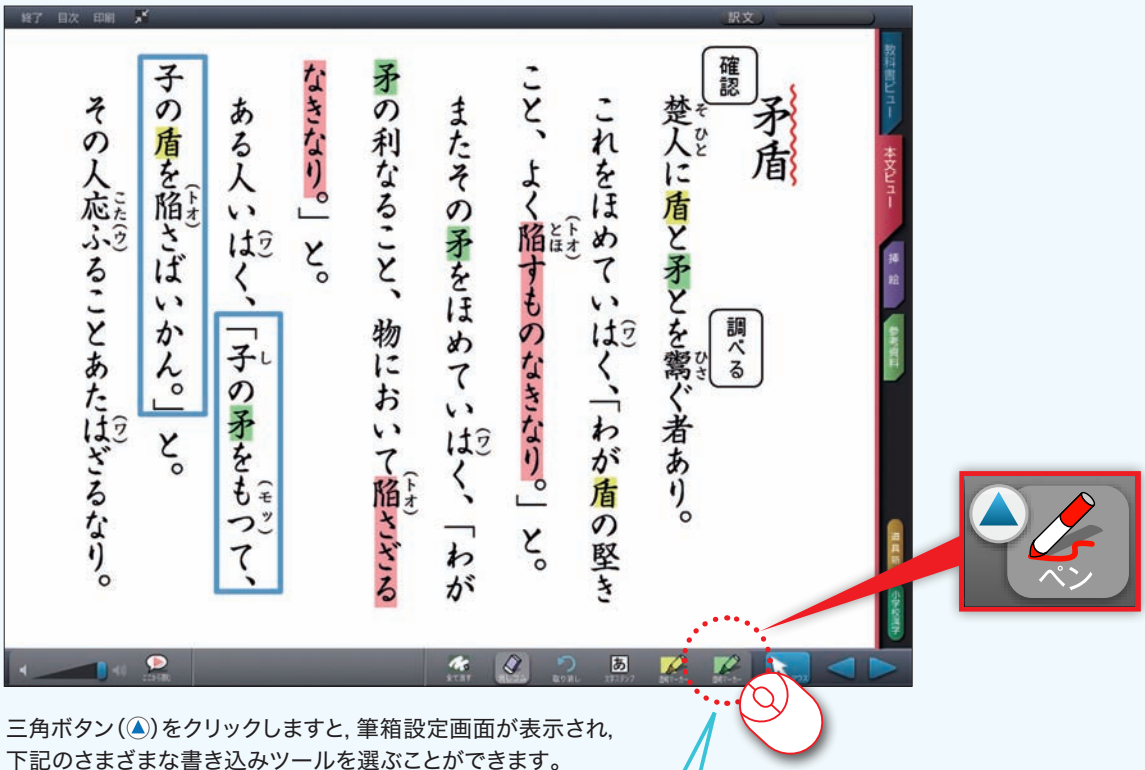
教科書ビューへの戻り方
右上の「閉じるボタン」をクリックします。

本文ビュー



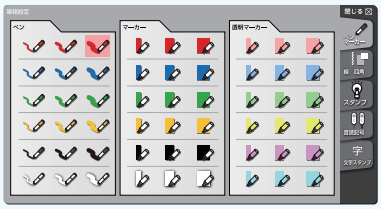
教科書ビューへの戻り方
教科書ビューのタブをクリックします。
※「古文・漢文」のみの機能です。

2 さまざまな書き込みができます。

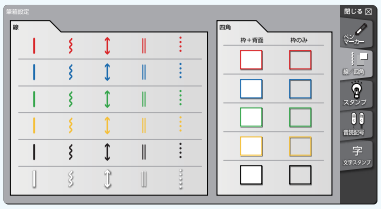


三角ボタン(▲)をクリックしますと, 筆箱設定画面が表示され,
下記のさまざまな書き込みツールを選ぶことができます。

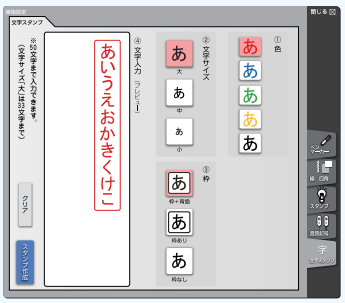
書き込みツールの種類



ペン・マーカー・透明マーカー

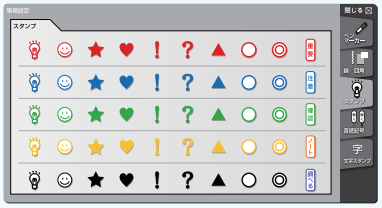


線・囲み罫

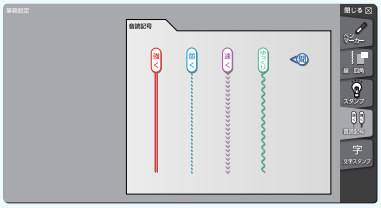


文字スタンプ

文字で好きなスタンプを作ることができます。

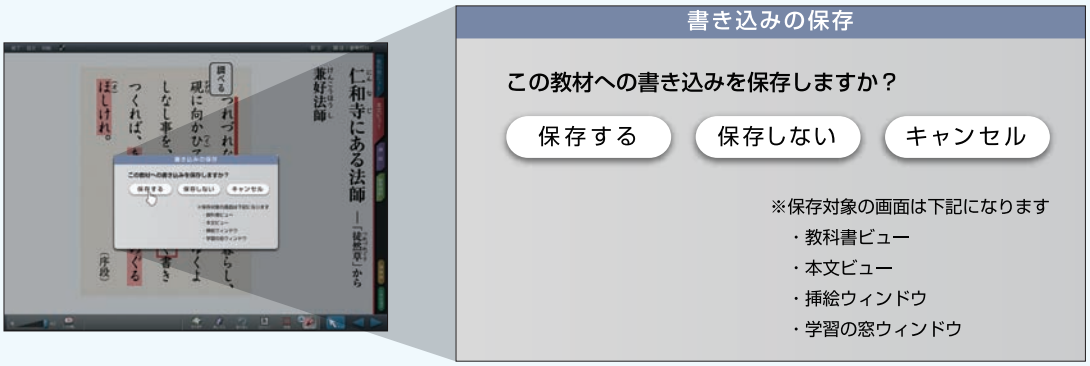


スタンプ



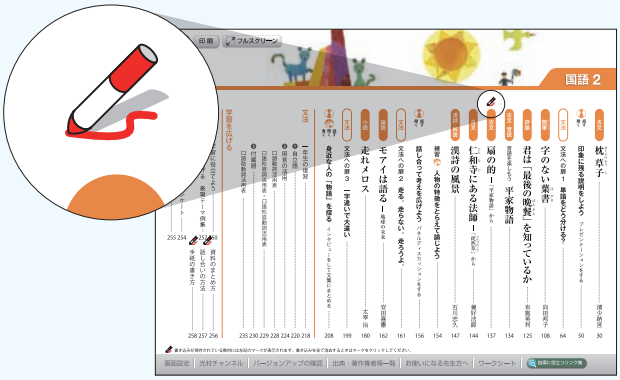
音読記号

3 書き込みを保存することができます。



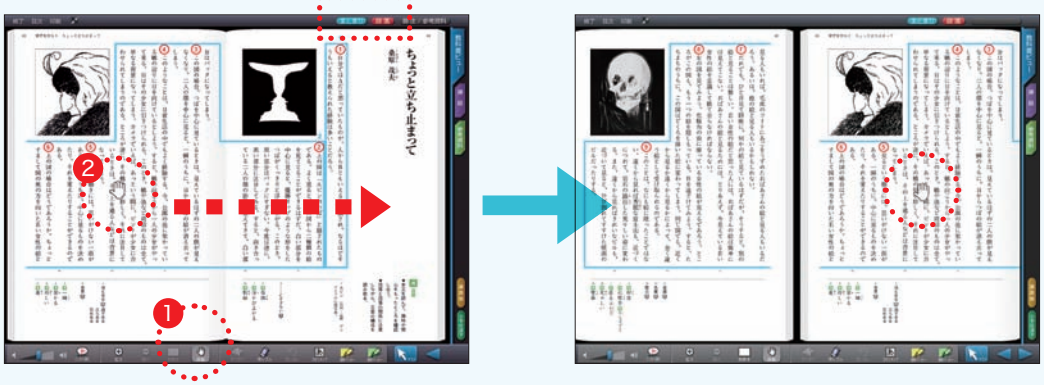
書き込みをした教材で「目次ボタン」もしくは「終了ボタン」を押すと，ダイアログが表示されます。「保存する」をクリックしますと，書き込みが保存されます。

書き込みを保存した画面がある教材は，目次画面の教材名の上に マークが表示されます。このマークをクリックしますと書き込みを消すことができます。



4 見開きをまたいだ表示ができます。

「段落」「まとまり」をクリックしますと，段落番号，意味段落が表示されます。



❶「移動ツール」を選択します。
❷ マウスをクリックしたまま右へ動かします。

画面がスクロールし，見開きではないページを同時に表示できます。

5 教材に即した豊富な資料をお使いいただけます。 参考資料ウインドウ

各教材の参考資料の一覧は，目次画面の「お使いになる先生方へ」→「参考資料ウインドウタイトル一覧」に収録されています。

活動
1年生「文法への扉3
単語の性質を見つけよう」

動画　2年生「扉の的」ー「平家物語」から

詳しい脚注

6 「話すこと・聞くこと」の活動を動画で確認できます。 参考資料ウインドウ

ポイントがテロップで表示されますので，
動画を見ながら「話すこと・聞くこと」の
学習事項を確認することができます。

話すこと
聞くこと

1年：友達をみんなに紹介しよう

友達をみんなに紹介しよう

取材してスピーチで伝える

教科書 P.36〜P.39

学習のねらい

○ 紹介する相手の人柄を伝えるための材料を，インタビューを通して集め，整理する。
○ 話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方などに注意して話す。

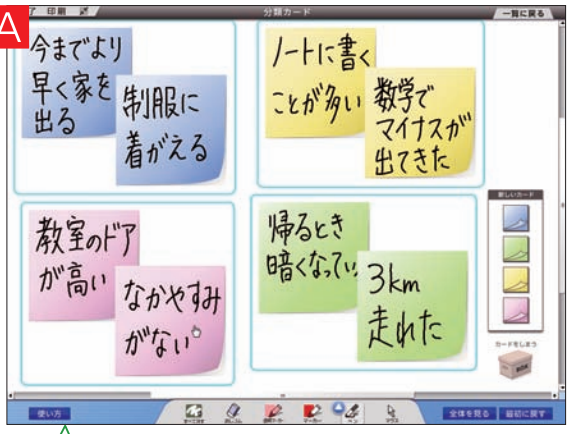
学習の流れ（全4時間）

第1次	**紹介する相手の人柄を伝えるための材料を，インタビューを通して集め，整理する。**（1時間） ① 一日を振り返り，「中学生になったと実感すること」を挙げる。 A ② 少人数のグループで，中学生になった実感を取材し合う。 B C
第2次	**紹介する相手の人柄が効果的に伝わるように，スピーチの構成メモを作る。**（1時間） ① 取材したことの中から，紹介する相手の人柄が伝わる話題を選ぶ。 ② 一分程度に収まるように内容を絞り込み，スピーチの構成を考えて構成メモを作る。
第3次	**スピーチの会を開いて，相互評価する。**（2時間） ① スピーチの評価の仕方を話し合い，発表の練習をする。 D ② スピーチの会を開いて，相互評価する。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ① 一日を振り返り，「中学生になったと実感すること」を挙げる。

A



道具箱：分類カード

本活動では，付箋を活用したブレーンストーミングで，さまざまなことを活発に発想させたいと考えた。しかし，ほとんどの生徒は，そのやり方がわからない。また，口頭で説明しても，なかなか理解させるのは難しい。そこで，この学習活動に入る前に，数名の生徒を前に呼び，道具箱「分類カード」を使いながら模擬演習を行った。

「登下校」のときに実感することは青の付箋など，実感する場所によって付箋の色を決めて書き出させた後，教師が貼られた付箋を整理・分類した（A）。また，作業中には，生徒が新たに思いついた「実感したこと」も追加していった。その後行ったグループ活動では，初めてブレーンストーミングをする生徒も多かったが，模擬授業を行ったことにより，短時間でさまざまな「中学生になったと実感すること」を挙げることができた。

生徒の反応

ブレーンストーミングに初めて取り組んだが，模擬演習を見たことでイメージがつかめて，楽しく取り組めた。みんなの前で操作するのは緊張したけれど，うまくできたときはうれしかった。

第1次 ② 少人数のグループで，中学生になった実感を取材し合う。

B

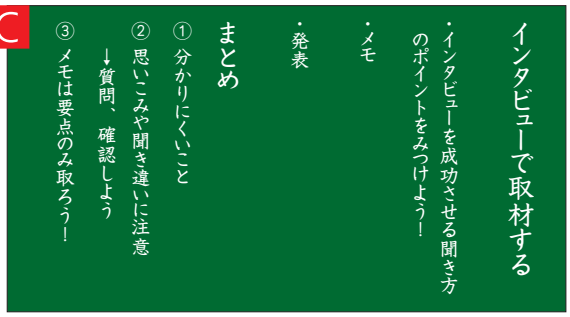
参考資料ウインドウ：
動画資料「取材の様子を見てみよう」

本活動では，一つの答えから更に質問の内容を深めたり，広げたりできるような取材をさせたいが，予め考えた質問だけを一問一答式に行って終わってしまうことが多い。

また，お手本になるような取材の場合を中学生は意識して見たことがないので，「取材」といってもなかなかイメージがつかめない。そこで，参考資料「取材の様子を見てみよう」を視聴させることにした（B）。

動画を見せる前に，「インタビューを成功させる聞き方のポイントを見つけよう。」と見る観点を与えてから，解説なしの動画を視聴させた。その後，生徒が気づいたポイントを発表させ，必要に応じて再度動画を視聴させながら，教師がまとめていった（C）。

C



板書例

生徒の反応

インタビューのときにどんな質問をしたらよいか，メモをどのようなタイミングで取ったらよいかということがよくわかった。先生が解説しながら，もう一度動画を見せてくれたので，わかりやすかった。

第3次 ① スピーチの評価の仕方を話し合い，発表の練習をする。

スピーチの発表を相互評価させるため，予め教師が評価の基準を説明していたが，生徒によって評価にばらつきが出てしまっていた。そこで，スピーチの練習に入る前に，参考資料「二つのスピーチを比べてみよう」を使い（D），クラス全員で相互評価の練習をすることにした。「①視線や表情」「②話す速度」「③声量」「④間の取り方」の観点から動画をA・B・Cで評価させ，それぞれのスピーチの評価とその評価の理由をクラス全体で話し合った。

評価の作業を実際に体験したことで，生徒はどのようなスピーチをしたらよいのかというイメージを明確にもつことができ，その後の練習にも意欲的に取り組むことができた。

生徒の反応

メモを見ながらスピーチをするときの視線の上げ方や，間の取り方，声量などの目標が具体的にイメージできた。

D

参考資料ウインドウ：
動画資料「二つのスピーチを比べてみよう」

国語デジタル教科書を活用した感想

様々な活動をさせる前に，道具箱や動画を使い，具体的なイメージを全員に共有させることができた。また，学習の目標を明確にするうえでも，デジタル教科書は大変有効であった。

説明文

1年：シカの「落ち穂拾い」 ―フィールドノートの記録から

論理の展開を押さえ，内容を読み取ろう

図表に注意し，事実と意見を読み分ける

教科書 P.118〜P.127

学習のねらい

○ 記録の文章を読み，内容や考え方で興味や関心をもったところを確認する。
○ 図表の役割に注意しながら，事実とそれにもとづく筆者の考えを読み分ける。
○ 学習した内容を生かし，図表を効果的に用いた文章を書く。

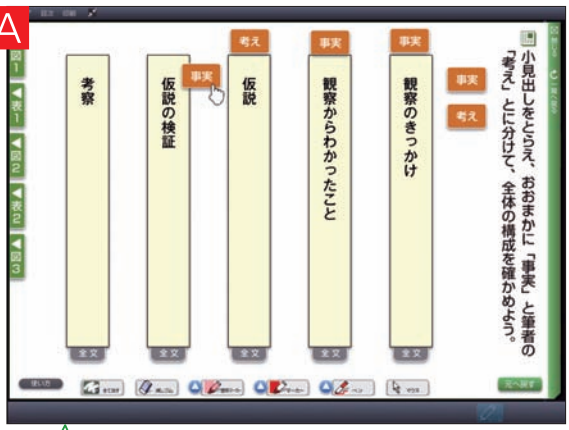
学習の流れ （全6時間）

第1次	**文章の内容を図表を対応させて読む。**（3時間） ① 「記録」の文章の特徴を理解し，本文の内容に興味をもつとともに，全体の構成をとらえる。 A B ② 図表の効果的な使われ方に注意し，論理展開を追って文章の内容を理解する。 C D 「観察のきっかけ」「観察からわかったこと」を文章と図表を関連させながら読み，事実をとらえる。 「仮説」と「仮説の検証」を読み，仮説とその根拠となる事実（図表），検証結果を読み取る。 ③ 筆者の考察の内容をとらえ，記録の文章の特徴をまとめる。「考察」を読み，筆者の導き出した結論や今後の課題を読み取る。 記録の文章の特徴を振り返る。
第2次	**図表の役割について考える。**（1時間）。 E ① 小グループで本文中の図表や各自が持ち寄った図表（新聞や雑誌の切り抜き）の役割や効果について話し合う。 ② 図表の役割と効果についてまとめる。
第3次	**図表を用いた記録の文章を書く。**（2時間） ① 図表を用いて「ある日曜日の日記」を書く。 ② 小グループで，各自が書いた文章を読み合い，批評し合う。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ① 「記録」の文章の特徴を理解し，本文の内容に興味をもつとともに，全体の構成をとらえる。

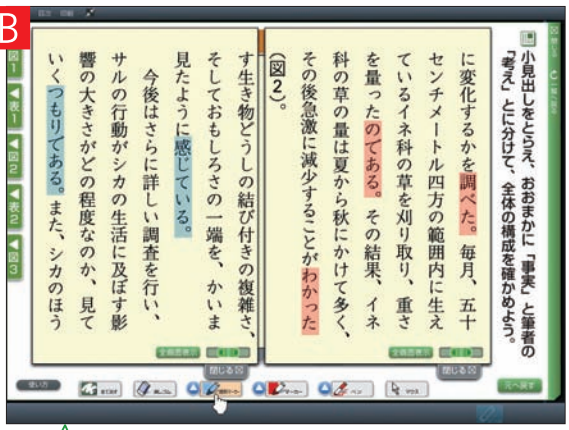
A



参考資料ウインドウ：活動

目標の確認，本文通読，興味をもったことの発表のあと，全体の構成をとらえさせるために，デジタル教科書の短冊シート画面で，「事実」「考え」カードを動かし，小見出しごとの役割を確認した（A）。

B

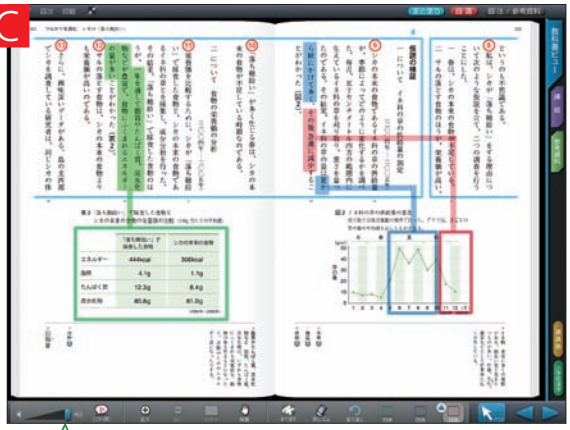


参考資料ウインドウ：活動（全文表示）

さらに，「図表」を開いたり，半画面表示で本文に「事実」と「考え」とを文末表現から区別したりするなどの学習を行い（B），次の内容理解がスムーズに行えるようにした。

第1次 ② 図表の効果的な使われ方に注意し，論理展開を追って文章の内容を理解する。

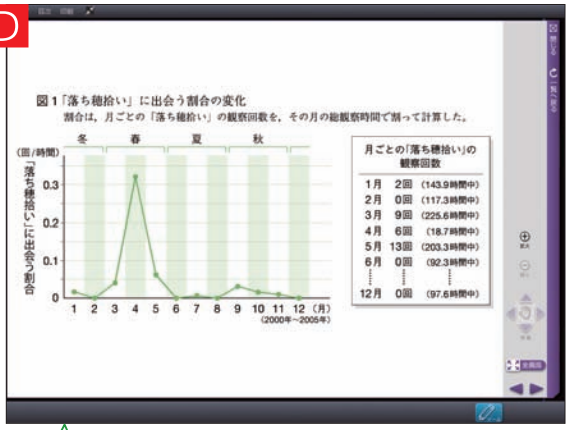
C



教科書ビュー：
ツール(透明マーカー，四角枠)「まとまり」「段落」

文章と図表を関連させながら，「事実」とそこから導き出した筆者の「考え」を読み取っていった。生徒を前に呼び，「教科書ビュー」の本文に線を引かせ，どの図表のどの部分が対応しているかを説明させた(C)。中には，本文には書かれていないが，新たに，図表から読み取れることを，自分の言葉で説明できる生徒もいた。本文の内容を自分が説明しているという意識が課題に対する積極的な取り組みに繋がったようである。

D



挿絵ウインドウ

また，「挿絵」の図表だけを示し(D)，「この図表を示せないとしたら，どのように説明するか」と，図表を文章化させ，図表がある場合とない場合とを比較させた。それにより図表を用いる効果を実感させることができた。

生徒の反応

自分が筆者になって調査結果を報告しているつもりで説明できた。文章を理解するには，図表との関係をしっかりつかまないといけないことがわかった。

第2次 図表の役割について考える。

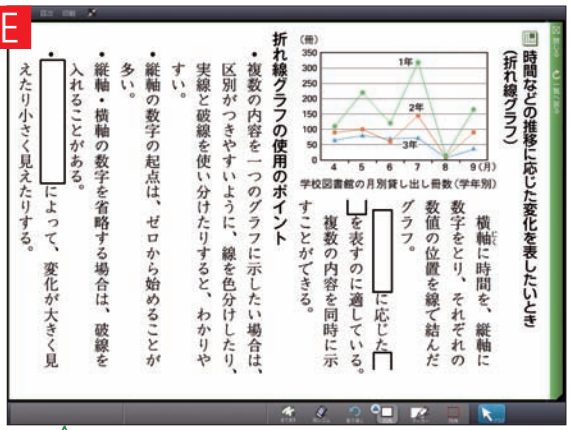
本文中の図表や各自が持ち寄った新聞や雑誌の図表を使って，図表の役割について小グループで話し合った。小グループによる話し合いのあと，参考資料の資料「それぞれのグラフの特徴を知ろう」を使い，図表の特徴，役割についてまとめていった。

その際，資料の文中の「効果」にあたる部分の一部を「枠のみ」で隠して示し(E)，小グループで話し合われたことを参考に，隠された部分に入る適切な言葉を考えさせた。「マーカーで隠された言葉を探る」というクイズ感覚の学習となり，楽しみながらも真剣に取り組む姿が見られた。

生徒の反応

生活の中に思ったよりもたくさんの図表が使われていることに気づいた。説明する内容によって図表を使い分けることが大事だとわかった。

E



参考資料ウインドウ：資料(折れ線グラフ)

国語デジタル教科書を活用した感想

「図表」という視覚的にとらえる材料を扱う本教材では，図表の意味を考えさせたり，文章と対応させたりすることが非常に簡単に行え，大変有効であった。「非連続型テキスト」の情報を読み解く力を身につけさせるという視点からも，デジタル教科書を積極的に活用していきたいと感じた。

文法

1年：蓬莱の玉の枝ー「竹取物語」から

古典の朗読・暗唱を通して，古典作品に親しもう。

古典の仮名遣いやリズムをしっかり身に着けよう！　教科書 P.138〜P.147

学習のねらい

○ 古典の文章を読み，興味や関心をもってその世界に触れる。
○ 仮名遣いに注意したり，リズムを味わったりしながら音読し，古典の文章に読み慣れる。

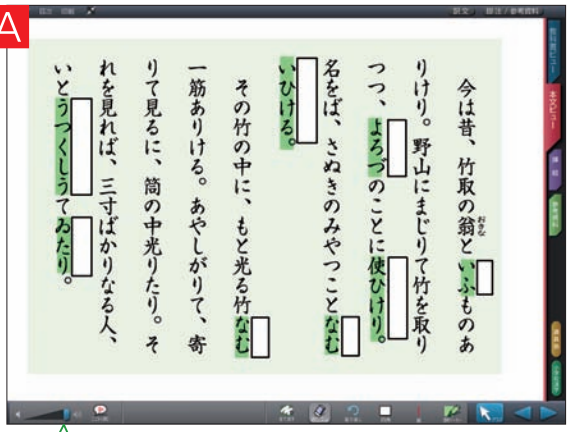
学習の流れ（全4時間）

第1次（1時間）	① 図版を見ながら，「竹取物語」のあらすじをつかむ。 ② 「竹取物語」の冒頭部を音読し，内容を理解する。 A B
第2次（1時間）	① 「くらもちの皇子の架空の冒険談」のいきさつや結末を読み，物語のおもしろさを味わう。 C ② 「くらもちの皇子の架空の冒険談（古文）」について，場面の様子や人物の想いを想像しながら音読する。
第3次（1時間）	① かぐや姫と翁たちの別れ，帝の行動部分を読み，場面の様子や登場人物たちの思いを考える。 ② 「ふじの山」の場面について，場面の情景や心情を想像しながら音読する。
第4次（1時間）	① 「竹取物語」の古文を一斉に音読し，古文のリズムや古語に親しむ。 D E F ② 登場人物のものの見方・考え方と現代の人々の考え方を比較してまとめる。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

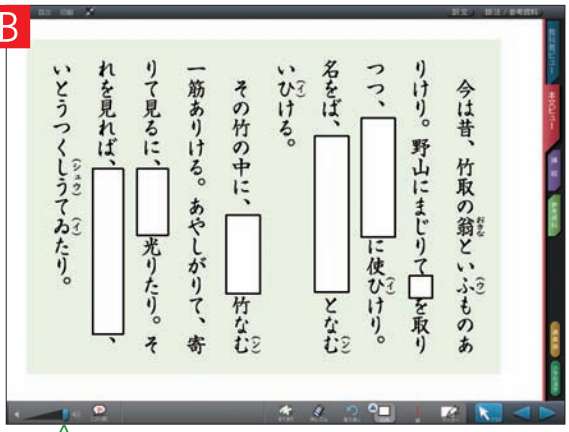
第1次 ②　「竹取物語」の冒頭部を音読し，内容を理解する。

A



本文ビュー：ツール（透明マーカー/四角枠＋背面）

B



本文ビュー：ツール（四角枠＋背面）

中学校1年生にとって，古典作品に触れる初めての機会のため，古典の仮名遣いやリズムを楽しく慣れさせたい。そこでまず，「古典の言葉」を参照し，古典の仮名遣いを説明した。次に，本文ビュー冒頭部の，古典の仮名遣いに付いている「ルビ」をあらかじめ隠しておき（A），その読み方を確認させた。その際，「古典の言葉」に書かれている説明を使って，発表させた。

古典の仮名遣いを確認した後，訳文機能で原文と現代語訳を読み比べながら内容を理解させ，音読へと繋げていった。まず，朗読機能で古典のリズムを確認した後，ペアでリズム感が出るまで音読させた。その後，クラス全体で音読させた際には，本文を次々に隠していき（B），部分暗唱から全体暗唱へと繋げていった。

生徒の反応

電子黒板に古典本文が映っているため，仮名遣いを問われても，教科書の「古典の言葉」の説明を見ながら答えることができた。また暗唱する時には，先生がドンドン本文を隠していくので，ゲームみたいに楽しく暗唱できた。

第2次 ①　「くらもちの皇子の架空の冒険談」のいきさつや結末を読み，物語のおもしろさを味わう。

C

参考資料ウインドウ：
動画資料「かぐや姫と五人の貴公子」

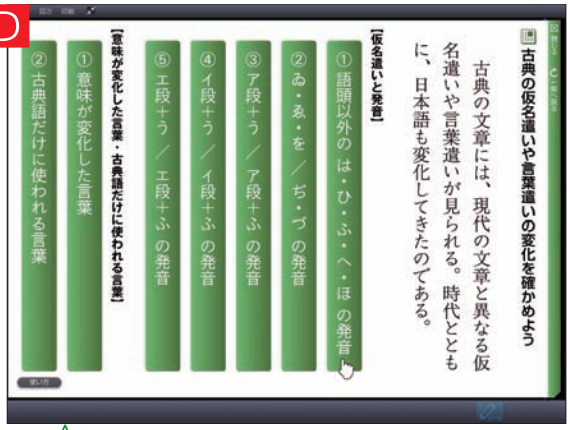
物語全体のおもしろさを味わったうえで，「くらもちの皇子の架空の冒険談」へと入らせたい。まず，脚注や教科書を基に，五人の貴公子に与えられた難題と，その結末について押さえていった。次に，参考資料「かぐや姫と五人と貴公子」を視聴させ（C），「なぜ偽物と見破られたか」などを捉え，よりイメージを膨らませていった。そして，第1次と同様，古典の仮名遣いや現代語訳を確認しながら，くらもちの皇子の性格や心情を考えていった。

生徒の反応

「かぐや姫と五人の貴公子」を見て，くらもちの皇子と他の貴公子の思いを知ることができ，「竹取物語」にさらに興味がわいた。特に，阿倍御主人の，燃えないはずの皮衣が燃やされてしまうところは，思わず笑ってしまった。

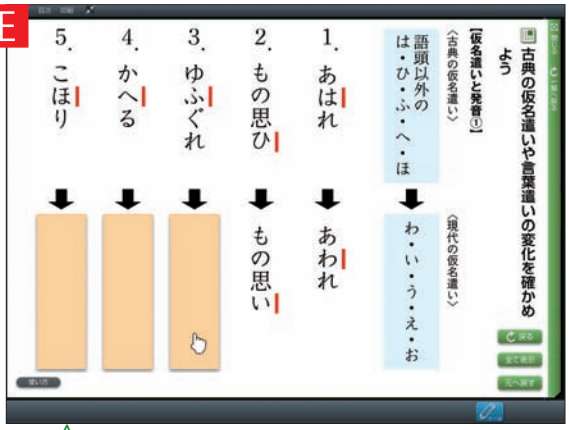
第4次 ①　「竹取物語」の古文を一斉に音読し，古文のリズムや古語に親しむ。

D



参考資料ウインドウ：活動

E



参考資料ウインドウ：
活動「語頭以外の は・ひ・ふ・へ・ほ の発音」

F

参考資料ウインドウ：
「竹取物語」の他の場面を読んでみよう

これまで，第1次や第2次に示したような指導を繰り返し行い，本時に入るまでに「竹取物語」を楽しみながら読み，古文のリズムで場面の様子や心情が伝わるような音読ができるようになってきた。そこで本時では，仕上げとして音読発表をさせると共に，参考資料を使い，今まで学んできた古典の仮名遣いを整理し（D E），さらに「竹取物語」の他場面（F）への音読に取り組ませた。他場面の音読も第1次からの学習を生かして読むことができ，古典学習への関心・意欲が高まったようであった。

1年：少年の日の思い出

立場を変えて読もう！

人物描写を読み取り，自分の考えをもつ

教科書 P.178〜P.194

学習のねらい

○ 作品を読み，登場人物のものの見方や考え方について，自分の考えをもつ。
○ 場面展開や人物の描写に注意して読み，登場人物の心情の移り変わりをとらえる。

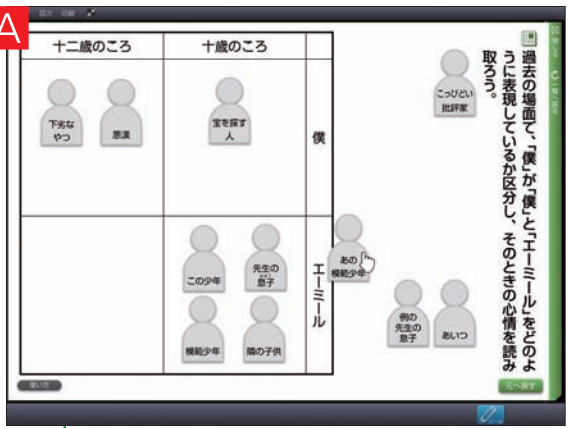
学習の流れ（全7時間）

第1次	**人物に着目して初発の感想を書き，本文の構成を理解する。**（2時間） ① 本文を通読し，人物に着目して初発の感想を書き，交流する。 ② 作品の場面構成を読み取る。
第2次	**「僕」と「エーミール」の人物像を読み取り，自分の考えをもつ。**（3時間） ① 「エーミール」と「僕」を，語り手としての「僕」がどのように呼んでいるかを整理する。 A ② 「エーミール」に対する「僕」の気持ちを読み取る。 B C ③ 結末の「エーミール」と「僕」の考え方について意見をもつ。 D
第3次	**立場を変えて作品を書き換えることで，読みを深める。**（2時間） ① 「エーミール」の立場から作品を書き換える。 ② 書き換えた文章を読み合い，感想を交流する。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第2次 ①　「エーミール」と「僕」を，語り手としての「僕」がどのように呼んでいるかを整理する。

A



参考資料ウインドウ：活動

まず，活動画面にある「悪漢」や「こっぴどい批評家」などの言葉は，語り手である現在の「僕」が，少年時代の「僕」や「エーミール」のことを呼んでいる言葉だということを確認し，それらが教科書のどこに書かれているかを探して線を引かせた。

その後，グループで話し合いながら，参考資料「活動」の画面を印刷したものを使い整理させ，生徒を前に呼んで発表させた。その際，参考資料「活動」を操作し，呼び名（「こっぴどい批評家」など）を動かして，表に入れていき（A），賛成の場合は，拍手をし，反対の場合は，反対する生徒が出てきて，違う表に入れることでクラス全員の検討を行った。

生徒の反応

表に整理したら，「僕」が「エーミール」や自分のことをどう思っているのかがわかった。みんなが考えていることがよくわかったので，いつもよりクラス討論が活発になった。

第2次 ② 「エーミール」に対する「僕」の気持ちを読み取る。

B

教科書ビュー：ツール（透明マーカー/拡大）

「『僕』が『エーミール』のことをどう思っているのかがわかる表現に線を引こう」と指示を出し，各自で教科書に線を引かせた後，グループ内で話し合いを行わせた。

代表者を前に呼び，グループごとに決めた色の透明マーカーで，教科書ビューに線を引きながら説明させた（B C）。線を引いた表現を指で示しながら説明できるので，従来の口頭のみの発表に比べて生徒も説明しやすかったようである。また，教科書ビューに発表した表現が残るので，他のグループからの賛成意見や付け足し，反対意見なども混乱せずに出せるようになった。その結果，クラス全体で「僕」の「エーミール」に対する気持ちをより深く検討させることができた。

C

生徒の反応

みんなが発表をする時に，電子黒板にマーカーで書き込んでくれたので，どこを根拠にしているのかがわかりやすかった。前で説明するときに，指で説明したい部分を示しながら説明できるので，説明しやすかった。

第2次 ③ 結末の「エーミール」と「僕」の考え方について意見をもつ。

「僕」以外の立場から「蝶への情熱」を考えさせるための学習として，「展翅」を視聴した（D）。

ほとんどの生徒は，蝶の「展翅」がどんなものかを知らない。教科書の脚注を読んでも，具体的に「展翅」の作業の手間や苦労を理解することは困難である。この動画を見て，僕が蝶を盗むときに出てくる「細長い紙切れ」の意味が初めてわかったり，こんなに大変な作業をエーミールがしていたのか」と気づいたりしていた。

再度，最後の「エーミール」と「僕」のやり取りについて考えさせた時には，「僕」の立場からだけではなく「エーミール」の立場からも考えた意見が多く見られるようになった。

生徒の反応

展翅の動画を見て初めて，こんなに大変な思いをしてつくった蝶をつぶすなんて許せないと思ったし，エーミールが怒る気持ちもわかった。

D

参考資料ウインドウ：動画資料

国語デジタル教科書を活用した感想

従来は，教師が口頭で一方的にまとめや解説を行うことが多く，聞き漏らしてしまう生徒がいたが，デジタル教科書を活用することで，生徒同士の交流もでき，楽しみながら，内容を確実に確認することができた。また，作品のキーとなる展翅を補足する動画があったので，授業準備の手間が非常に軽減された。

1年：文法への扉2

だれが・何を・どうする？

教科書 P.159

学習のねらい

○ 文節どうしの関係，連文節，文の組み立てについて理解する。

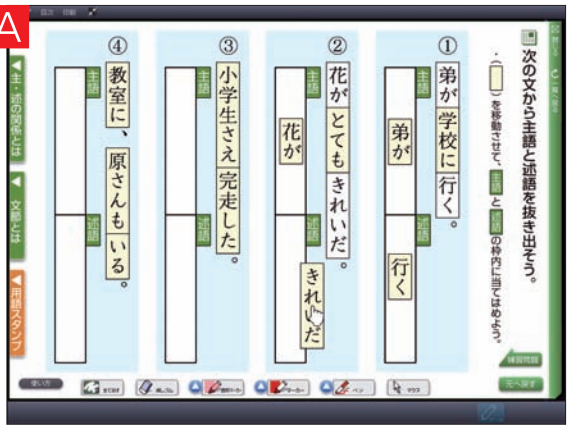
学習の流れ （全2時間）

第1次 （1時間）	① 山田さんの作文を読んで，どこが不自然なのかを考える。 ②「主・従の関係」「修飾・非修飾の関係」を理解する。 A ③「修飾・被修飾の関係」（223ページ）についての説明を読み， 参考資料「文節どうしの関係」→「一線部の修飾語が修飾している文節を抜き出そう」に取り組む。 B ④ 接続語，独立語についても，②③と同じ流れで行う。
第2次 （1時間）	①「並立」の関係にある連節文を理解する。 C D ② 補助の関係についても①と同じ流れで行う。 ③「文の組み立て」を理解し，例文を推敲する。 E

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ② 「主・従の関係」「修飾・非修飾の関係」を理解する。

A



参考資料「活動」の画面を印刷したものを生徒に配布し，各自で主語・述語を抜き出させた後，「はい，じゃあこれの主語は？」「述語は？」等，一斉問答の形式で尋ねながら，該当する文節をドラッグし，主語や述語の枠に移して，スクリーン上で確認した（A）。

第1次③「修飾・被修飾の関係」についても同様に行った。文節をドラッグして，枠の中に移す過程を見せることで，文節どうしの関係を視覚的に理解させることができた（B）。

B

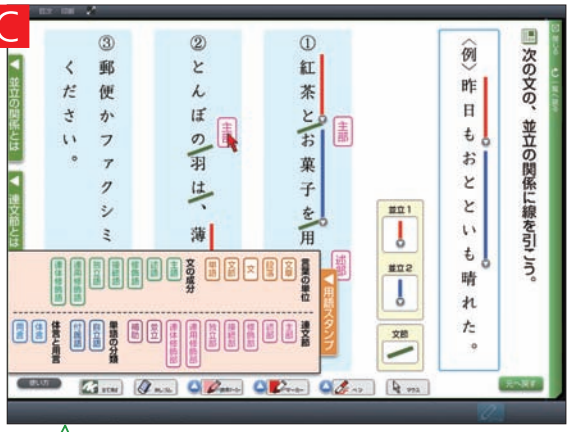
参考資料ウインドウ：
文法②文の組み立て/1.文節どうしの関係「活動」（A B）

生徒の反応

どの部分が主語や述語で，どの部分が修飾語かなどを，あらかじめ区切られた文節単位で抜き出すことができたので，自信をもって答えることができた。

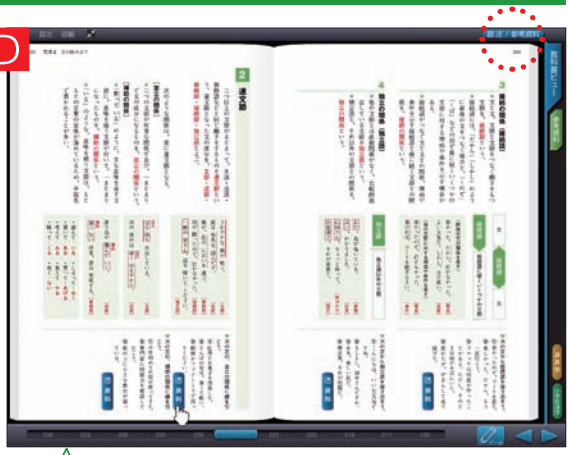
第2次 ①　「並立」の関係にある連節文を理解する。

C



参考資料ウインドウ：
文法②文の組み立て/2.連文節「活動」

D



教科書ビュー：脚注/参考資料

参考資料「活動」の画面を印刷したものを生徒に配布し，各自で文節に区切り，その上で並立語に線を引かせた。その後，一斉問答をしながらスクリーンで確認した。その際にも，まず文節を緑のスラッシュで区切ってから，並立語を指摘させた。

また，「用語スタンプ」の「主部」「述部」を，問題文の該当する箇所に提示し，連文節の意味を，実際の文の中で確認した(C)。

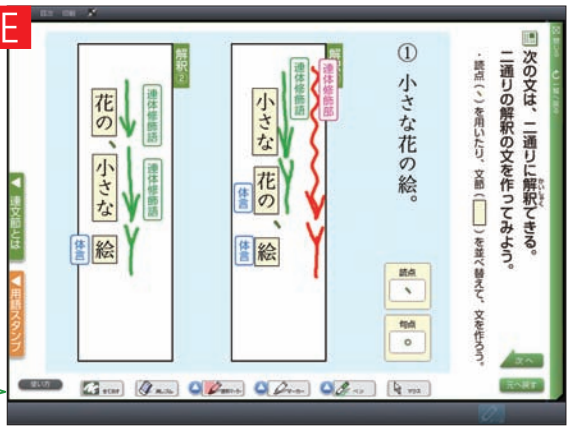
なお，「参考資料」を表示する時には，教科書ビュー右上の「脚注/参考資料」ボタンを押し，「資料」ボタンから活動を呼び出すことができ，スムーズに活動に入ることができた(D)。

第2次 ③　「文の組み立て」を理解し，例文を推敲する。

「小さな」が，「花の」に係るのか，「絵」に係るのかで解釈が変わることに気づかせたい。

まず，参考資料「活動」を使って，「花の」に係る場合は，その「花の」の後に、読点(「、」)を付けて，「小さな花の、絵」とするとわかりやすくなることを示した。次に，「絵」に係る場合は，「小さな、花の絵」とすればわかりやすくなることに加えて，「花の」と「小さな」のカードを入れ替え，「花の、小さな絵」としてもわかりやすくなることを示した。

E



参考資料ウインドウ：
文法②文の組み立て/3.文の組み立て「活動」

国語デジタル教科書を活用した感想	黒板に色チョークなどを使って主語や述語がこの部分だ，と示すことはできても，それぞれを抜き出して移動することはできない。 また，連文節を説明する際に，まずスラッシュで文節を区切ってから並立や補助の関係が示せるのは，「〜語」と言ってもそれが単語でなく文節を指すという知識を生徒のなかに浸透させるには大変効果的であった。それが，デジタル教科書では，文の成分をもともとの文から文節単位で抜き出し，主語や述語，修飾語などの枠に移動して示せるため，非常に画期的であった。

2年：字のない葉書

「家族のきずな」について考えよう

～作品に描かれた「父」の人物像を基に，筆者の「父」への思いに迫ろう～

教科書 P.108～P.112

学習のねらい

○ 人物の言動や様子を描いた表現に着目して，その人柄や心情をとらえる。
○ 父親に対する筆者の思いを読み取り，自分の考え方をもつ。

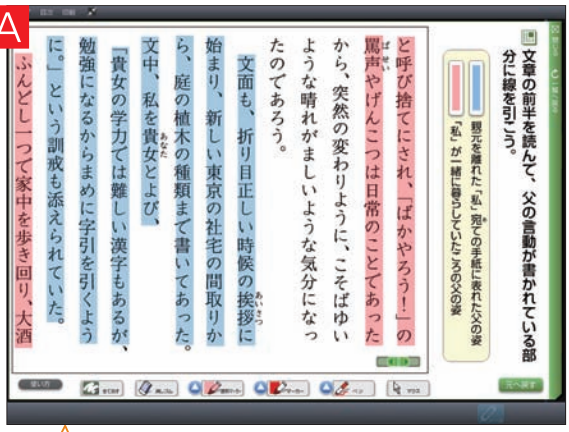
学習の流れ（全3時間）

第1次	**表現に着目し，父親をはじめとする人物の人柄や心情をとらえる**（2時間） ① 父親の行動や様子が描かれている部分に印を付けながら本文を通読する。 ② 父親の行動や様子を表している描写部分を整理し，人柄や心情をとらえる。 A B ③「終戦の年」の家族の様子がわかる描写を抜き出す。 ④ 家族が置かれた状況とそれぞれの心情について話し合う。 C D
第2次	**筆者の父親への思いをまとめ，自分の考えをもつ。**（1時間） E ① 筆者が父親をどのように見ていたのかがわかる表現を抜き出し，整理する。 ② 筆者の父親への思いについて共感できることや，共感しにくいと思うことを発表する。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

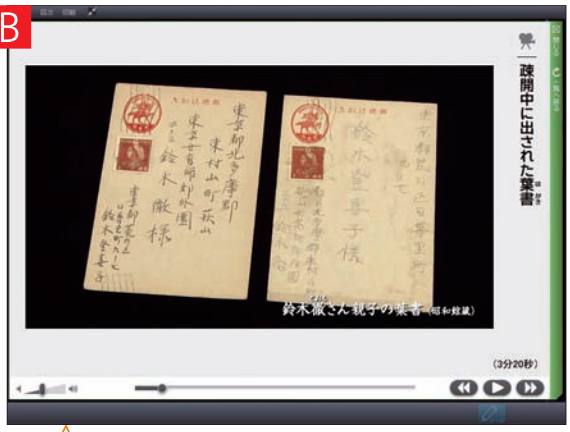
第１次 ②　父親の行動や様子を表している描写部分を整理し，人柄や心情をとらえる。

A



参考資料ウインドウ：活動

B



参考資料ウインドウ：動画資料

まず，生徒に「父親」の人物像をまとめるための根拠となる表現を本文中より探させた後，それを基に自分の言葉で「父親」の人物像をまとめさせた。

次に，自分が考える「父親」の人物像の根拠とした表現を，参考資料「活動」に透明マーカーを引かせ，発表させた。友達の意見を聞き，付け加え等がある生徒は，別の表現をに線を引いたり，消したりすることで，根拠を明確に示しながら自分の考えを発表した（A）。

また，この時代の背景や葉書の役割をより理解するために，参考資料「疎開中に出された葉書」を鑑賞させた（B）。

生徒の反応

自分の考えを発表するとき，根拠となる表現をみんなに見える形で示せたので，自分の考えを発表しやすかった。自分の考えと違うところをマークしていても，簡単に書き直したり付け加えたりできたので，意見交換もしやすかった。

第１次 ④　家族が置かれた状況とそれぞれの心情について話し合う。

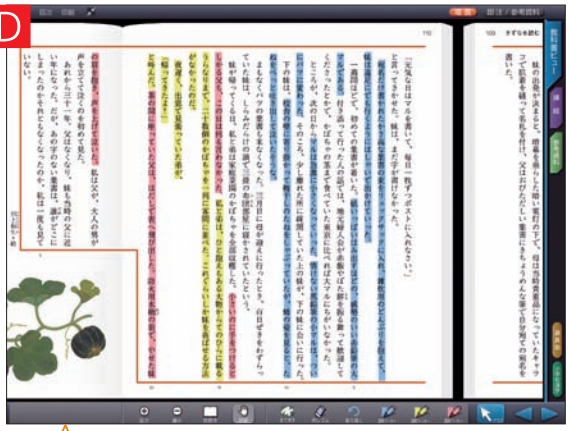
C

参考資料ウィンドウ：詳しい脚注

前時までの学習を受けて，本時は家族の心情に迫っていくこととした。まず，デジタル教科書の参考資料「詳しい脚注」を用いて(C)，戦時中の人々の暮らしを想像させた。学童疎開の様子を見たり，疎開先からの手紙を読んだりすることで，生徒は，当時と現在の生活の違いをより現実味を帯びて感じることができたようである。

次に，家族それぞれの心情が読み取れる表現をノートにまとめさせた。その後，デジタル教科書に，それぞれの心情を読み取る際に，根拠とした表現を登場人物ごとに，色分けしながら線を引き，自分の考えを発表し合った(D)。

D



教科書ビュー：
ツール（拡大/移動/透明マーカー）

生徒の反応

写真を見ることで戦時中の生活の様子がとても想像しやすかったし，自分たちと同じ世代の手紙を見ることで，今と当時の生活の違いだけでなく，考え方の違いにも気づくことができた。

第２次　筆者の父親への思いをまとめ，自分の考えをもつ。

前次までの学習を受け，本時は，筆者の「父親」への思いをまとめることとした。まず，本文中から筆者の「父親」に対する思いが読み取れる表現を抜き出した。その思いに迫った。

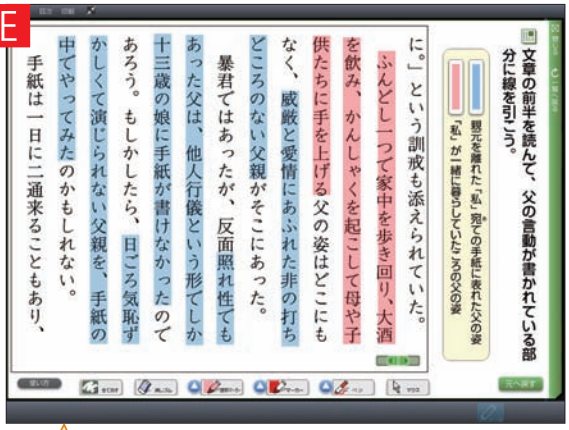
その際，デジタル教科書に保存した線引きを提示し，前時までの学習と本時の学習のつながりを明確に意識させながら，本時の活動を進めていった。

その後，筆者の「父親」への思いを自分なりの言葉でまとめ，参考資料「活動」を使い，その根拠となる表現に線を引かせ，自分の考えを発表させた(E)。

生徒の反応

前の時間に学習したことを，デジタル教科書の画面で見ることができたので，学習したことをすぐに思い出せた。

E



参考資料ウインドウ：活動

国語デジタル教科書を活用した感想	生徒の学びの成果を，デジタル教科書の画面で，時間をまたいで残しておくことが簡単にできたので，学習のつながりを生徒に意識させやすかった。また，デジタル教科書は，生徒の意見のすり合わせを視覚的にサポートするツールとして，生徒の意見交換を円滑にする手助けとなった。

説明文

2年：君は「最後の晩餐」を知っているか

本作品の魅力に迫ろう

～作品中の表現に着目し，筆者のものの見方について考える～

教科書 P.125～P.132

学習のねらい

○ 文章を読み，初めて知ったことや興味をもったところなどを確認し合う。
○ 使われている言葉や表現の工夫などに注意しながら，筆者のものの見方や考え方を読み取る。

学習の流れ（全4時間）

第1次	**筆者の着眼のしかたや順序，示された根拠や資料について，発表しあう。**（3時間） ① 論じられている事柄の順序など，筆者の絵画の読み解き方をおおまかに捉える。 ② 文章全体を三つの部分（序論・本論・結論）に分ける。 A B ③「解剖学」「遠近法」「明暗法」について読み取り，まとめる。 C ④ 筆者が「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思った根拠を明確にし，まとめる。
第2次	**筆者の文章の魅力について考え，自分の考えをもつ。**（1時間） ① 筆者の文章の魅力について，グループで意見を出し合う。 D ② 語句の効果的な用い方や表現の工夫，筆者のものの見方や考え方などについて考えたことをまとめる。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第１次 ②　文章全体を三つの部分（序論・本論・結論）に分ける。

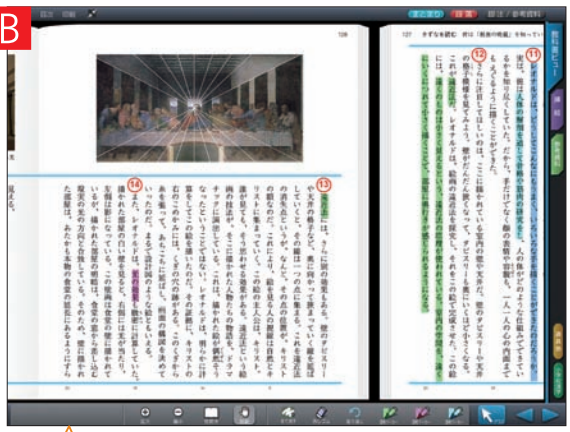
A

教科書ビュー：ツール（拡大/ペン）

第1次①において，教科書ビューの図版を提示し，拡大や書き込みなどをしながら，本文との対応関係を確認し（A），筆者の絵画の読み解き方をおおまかに捉えていった。

本時においては，まず，本文は大きく三つに分かれていることを確認し，生徒に各段落中のキーワード及びキーセンテンスを探させ，その段落の役割について考えさせた。次に，各自がキーワード（キーセンテンス）と考えたものを，デジタル教科書に線を引きながら発表をさせ，学級内で意見を共有していった（B）。

B



教科書ビュー：
ツール（拡大/透明マーカー）・段落・まとまり

その後，各自がキーワード（キーセンテンス）として挙げた意見を基に，各の段落の内容と役割を考えていく活動に取りかかった。

生徒の反応

みんなの意見を聞く時は，発表者の考えの根拠がすぐわかるので理解しやすかった。また発表する時には，みんなが同じ画面を見ているので，反応がよくわかって，楽しかった。

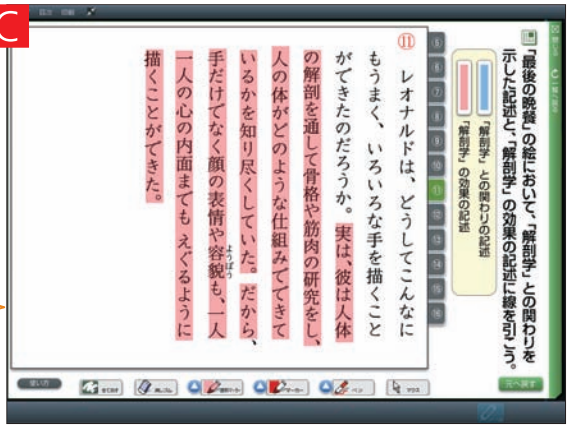
第1次 ③　「解剖学」「遠近法」「明暗法」について読み取り，まとめる。

前時にキーワードとして挙げられた「解剖学」「遠近法」「明暗法」について，筆者はそれぞれがどのような効果をもたらすと分析しているかを考えていくこととした。

その際，参考資料「活動」を使い，形式段落ごとにキーワードとその効果を探し，透明マーカーで線を引かせ発表させた（C）。

その後，各自が発表した内容を，学級全体で共有しながら，筆者が考える「最後の晩餐」の魅力についてまとめる活動へと入った。

C



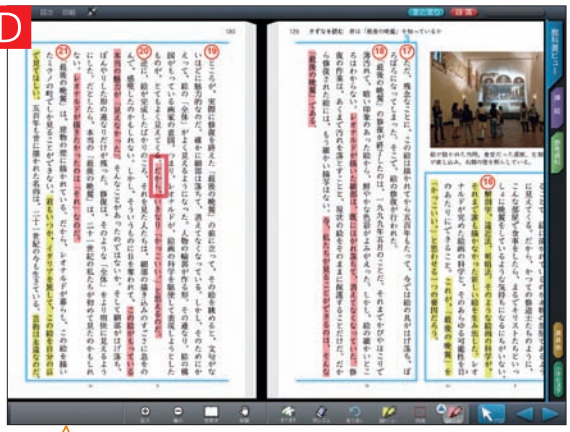
参考資料ウインドウ：活動

生徒の反応

長い文章全体をぼんやりと読み進めていくのではなく，形式段落などで細かく文章を切りながら考えていったので，文章がよく読み取れた。

第2次 ①　筆者の文章の魅力について，グループで意見を出し合う。

D

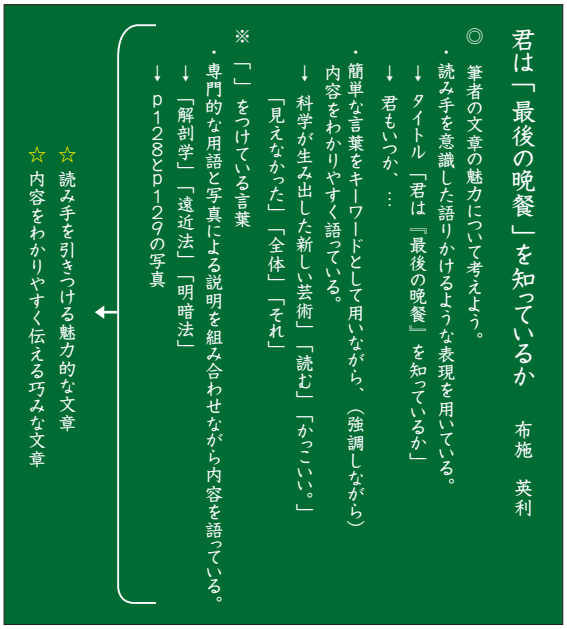


教科書ビュー：
ツール（拡大/透明マーカー）・段落・まとまり

小グループに分かれ，筆者の文章の魅力を考えていくこととした。グループで文章中の言葉遣いや論理の展開の仕方に着目して，本作品の魅力を話し合った後，全体で意見交換を行った。

その際，透明マーカーの色をグループ別に分け，で自分たちの意見の根拠となる表現に線を引かせ発表させた（D）。

意見の付け加えや反論があった場合は，デジタル教科書に透明マーカーで書き込みを加え，すり合わせを行った。



板書例

生徒の反応

グループ別に色を決めたので，どのグループの意見なのかがはっきりわかるし，簡単に線を付け足したり消したりできるので，意見交換がしやすかった。

国語デジタル教科書を活用した感想

これまで，長い文章を読む際には，各自が自分の教科書を見ながら学習を進めていたので，学級全体の理解度を捉えにくかった。デジタル教科書を使うと，同じ画面にみんなが書き込み，同じ画面を向いて学習を進めることができるので，生徒の理解度を捉えやすくなった。

2年：扇の的ー「平家物語」から

古典の表現に慣れ，平家物語を読み味わおう

～古典の文章独特の調子や響きを楽しみ，作品を読み味わおう～

教科書 P.137～P.143

学習のねらい

- 古典の文章を朗読して，その独特の調子やリズムに慣れ，作品を読み味わう。
- 登場人物の心情を想像しながら作品を読み，古典に描かれたものの見方や考え方に触れる。

学習の流れ（全4時間）

第1次	**「扇の的」の場面を朗読し，場面に描かれている状況や登場人物の心情を読み取る。（2時間）** ① 時代背景などを知り，古典の文章特有の表現に注意しながら繰り返し朗読する。 A ② 与一が扇を射るまでの経緯について現代文をもとに文章全体のあらすじをとらえる。 ③ 与一がどんな場面の中で，扇を射なければならなかったのかをまとめる。 ④「扇の的」で用いられている表現の特徴は何かを確認し，表現の効果について話し合う。 B
第2次	**登場人物の心情や葛藤を読み取り，当時のものの見方や考え方について考える。（1時間）** ①「あ、射たり。」と「情けなし。」の正反対の評価について，自分の考えをまとめる。 C ② 正反対の意見について，互いに文章の中の言葉を根拠にして話し合う。
第3次	**「弓流し」に描かれている場面での登場人物の心情を読み取る。（1時間）** ① 義経が弓を拾おうとしたことについて，自分自身の考えを発表させる。 D ② 登場人物を手がかりに，「平家物語」に描かれているものの見方や考え方について，自分の考えをまとめる。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ①　時代背景などを知り，古典の文章特有の表現に注意しながら繰り返し朗読する。

A

「扇の的」の場面を学習するにあたり，「平家物語」に描かれている当時の時代背景や，屋島の合戦の状況のイメージをもたせたい。

そこで，デジタル教科書の挿絵や動画を使って（A），教科書の挿絵資料をさらにイメージ豊かにとらえられるようにした。武具や地図などの挿絵は，拡大機能を使って，細部まで確認できるようにすると，合戦の流れや，緊迫した状況下で作品に登場する人物たちがどのように生きていたかを想像させやすくなった。

参考資料ウインドウ：
動画資料「源平合戦図屏風」

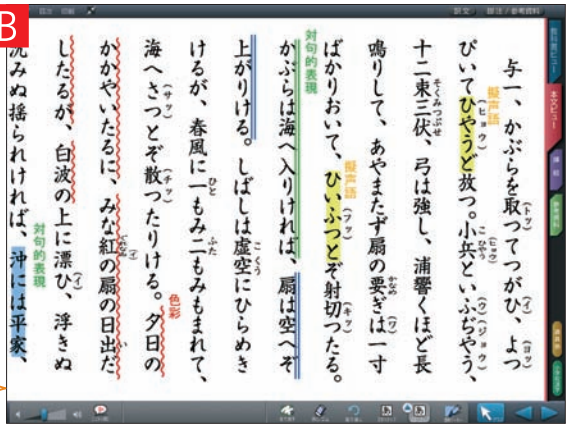
第1次 ④　「扇の的」で用いられている表現の特徴は何かを確認し，表現の効果について話し合う。

「扇の的」の場面では，対句的表現や擬声語が効果的に用いられている。色彩表現も豊かで，平家の雅やかさと，源氏の勇壮で冷酷にも思われる様子が，対照的に表現されている。

「本文ビュー」で，マーカーやスタンプ作成機能等を使い，視覚的に表現の特徴をとらえられるようにした（B）。手元の教科書で各自が考えたあと，生徒に線を引かせて発表させると，教科書と見比べ，興味深く画面を見る生徒の姿が見られた。模造紙等で黒板に示すと書き込みが消せず，繰り返し使えないが，デジタル教科書は何度も消せるので，複数のクラスで指導するのに役立った。

本文ビュー：
ツール（透明マーカー/線/文字スタンプ）

B



第2次 ①　「あ、射たり。」と「情けなし。」の正反対の評価について，自分の考えをまとめる。

C

「あ、射たり。」と「情けなし。」という，与一が舞を舞った男を射倒したことに対しての両極的な受け止め方を知り，それについての自分の考えをまとめさせた。

まず，「平家物語画帖」を示し（C），与一の腕前がすばらしかったことや，それを讃えるために平家方の男が舞を舞ったことを確認した。また，本文ビューで本文と訳文を並べて見せ，間違えやすい語句や，わかりにくい表現を，再度，全員で確認した。マーカー等の書き込みを保存しておくと，前時までの学習内容が，短時間で見直せるので便利だった。

挿絵ウインドウ：「平家物語画帖」

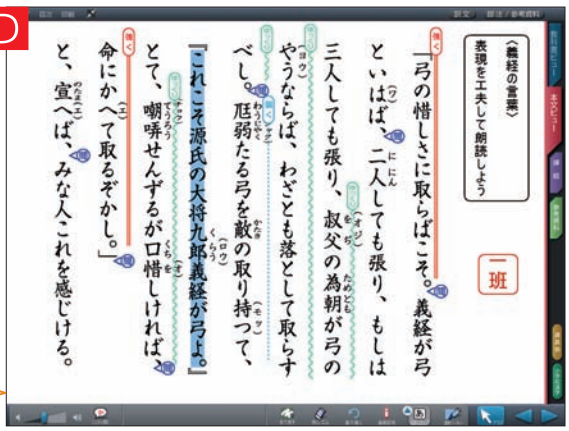
第3次 ①　義経が弓を拾おうとしたことについて，自分自身の考えを発表させる。

まず，朗読機能を使って，「弓流し」の場面の範読を聞き，繰り返し朗読した。古文を読み慣れたあと，現代文部分と古文（現代語訳）部分を読み，老臣たちと義経の思いを比べた。そして，読み取った義経の思いをもとに，表現を工夫して古文部分の朗読に入った。

朗読は，班ごとに，工夫したところを本文ビューに音読記号を書き込みながら発表し，相互評価をした。画面に表示された工夫を見ながら，朗読を聞けるので，どのような工夫をしているのかがよくわかった。評価をしている間に，画面への書き込みもでき，意欲的に発表が行えた。

本文ビュー：
ツール（透明マーカー/音読記号/文字スタンプ）

D



2年：文法への扉1

単語をどう分ける？

教科書 P.64

学習のねらい

○ 活用のある自立語と活用のない自立語の働きを理解する。

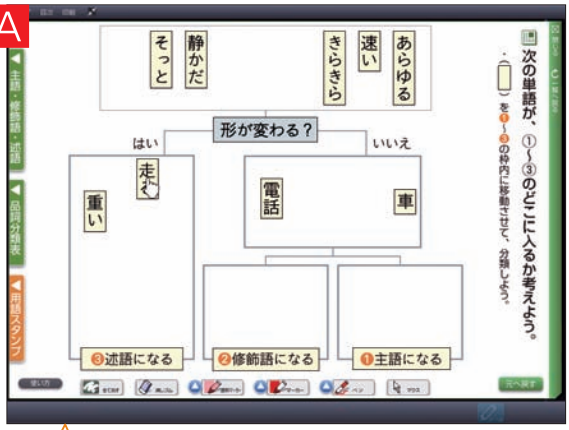
学習の流れ（全2時間）

第1次（1時間）	① パンの分類について，それぞれのパンがどのラインに入るか考える。 ② 文法への扉1にある参考資料で，各単語の分類を考える。A B ③「単語分類表」を用いて，単語の分類方法と各品詞名を学習する。C
第2次（1時間）	① 活用する自立語としない自立語について品詞の性質や語例を学習する。D E

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ②　文法への扉1にある参考資料で，各単語の分類を考える。

A

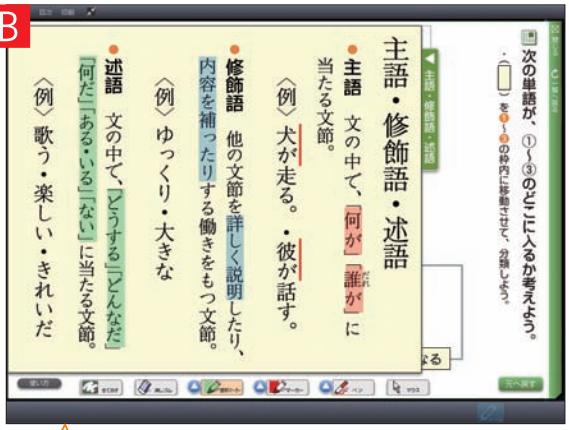


参考資料ウインドウ：文法への扉1「活動」

「形が変わる」（活用する）かどうかについては，例えば「ない」などの語につなげてみたとき，「速い」→「速く」「走る」→「走ら」など形が変わるものと，そもそも「ない」などに直接つながらない語（＝活用しない語）があることを確認し，「参考資料」の単語のカードをそれぞれの枠にドラッグして分けた（A）。

その際，「主語になる」語と「修飾語になる」語の分類を考えさせたが，この分類は，1年の学習内容ということもあり，左の「主語・修飾語・述語」タグを出して，復習・確認をした（B）。

B



参考資料ウインドウ：文法への扉1「活動」/「主語・修飾語・述語」タグ，透明マーカー

また，自立語で「形が変わる」ものは「述語になる」ということも同時に確認した。

生徒の反応

単語が分類されていく過程をみんなで考えたので，共同作業のような雰囲気になった。活用の有無から，どのような成分になるかを考えて分類する過程は難しそうと思ったけれど，デジタル教科書を活用して視覚的に整理することができたので，よくわかった。

第１次 ③　「単語分類表」を用いて，単語の分類方法と各品詞名を学習する。

C

参考資料ウインドウ：
文法への扉1「活動」/「品詞分類表」タグ

第１次の②で経験した，具体的に自立語を各品詞に分けていくプロセスが，決して適当なものではなく，システマチックな分類法になっていることを，参考資料「品詞分類表」タグを出して示し，生徒たちに理解させた（C）。

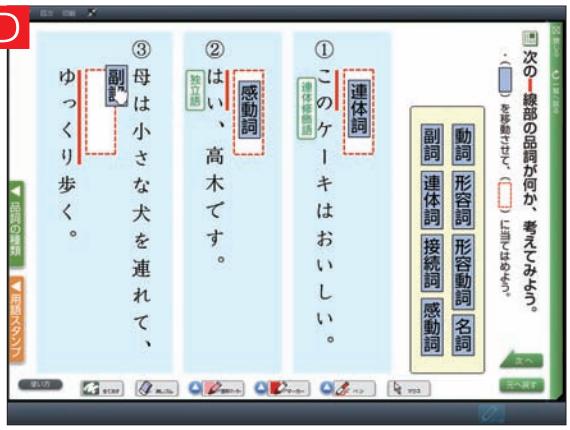
その際，今重点的に学んでいるのは右側にある自立語についてであることを確認し，第１次②で出てきた語例（＋その他の語例）を，書き込んでいった。

生徒の反応

第１次②で単語を大雑把に分けた過程を改めて整理することができたし，１つの大きな画面でやり取りしながら整理してくれたので，授業に積極的に参加しているという気持ちになった。

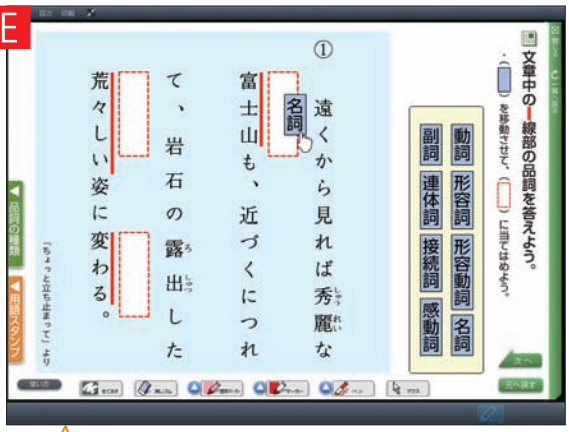
第２次 ①　活用する自立語としない自立語について品詞の性質や語例を学習する。

D



一通り自立語の各品詞について把握させた後，参考資料を使って，品詞の種類を学習した。まず参考資料「活動」の画面を印刷して，各自に取り組ませ，次に，スクリーン上で一斉問答により答えさせた。その活動をしながら，「用語スタンプ」を用いて，その品詞が文の中でどんな成分になっているかも考えさせていった（D）。

E



参考資料ウインドウ：
文法①自立語/2.活用しない自立語「活動」（D E）

さらに参考資料の別の活動（教科書未収録問題）に取り組ませ，「ちょっと立ち止まって」という既習の説明文にも文法の知識が生かせることを確認した。

国語デジタル教科書を活用した感想

一口に「単語」といっても，活用したりしなかったり，文の成分として異なった使われ方をしたりなど，それぞれの品詞に特有の性質があることを，デジタル教科書を使うことで視覚的に示すことができた。単語が分類されていく過程も，簡単な操作で見せることができ、効果的であった。

説明文

3年：月の起源を探る

仮説検証って，何だ？

「月の起源を探る」を丁寧に読み，科学的な内容の文章に親しもう。　教科書 P.42〜P.50

学習のねらい

○ 科学的なものの見方や研究方法を知り，それらについて自分の考えをもつ。
○ 文脈の中での語句や図の使い方などに注意して読み，筆者の論理の展開のしかたを捉える。

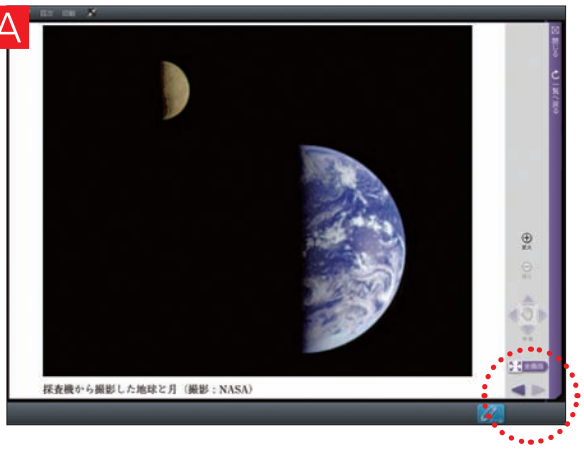
学習の流れ（全5時間）

第1次	**月や地球の起源について興味をもつ。**（1時間） ① 図と見出しから，月についてのイメージをもち，本文の内容を予測する。 A B ② 本文を通読し，はじめて知ったことや興味をもったことを書く。
第2次	**図や小見出しの役割や効果を考える。**（1時間） ① 図表の効果的な使われ方に注意し，論理展開を追って文章の内容を理解する。 C ② 気がついたことを発表し合い，図や小見出しの役割や効果をまとめる。
第3次	**筆者の論理展開を整理し，科学的な研究方法についての考えをもつ。**（3時間） ① 序論・本論・結論の文章構成を確認し，問題提起を探す。 D E ② 問題解決の筋道を，筆者の論理展開に沿って理解する。 ③ 筆者の論理展開を参考に，科学的なものの見方や研究方法について自分の考えをまとめる。

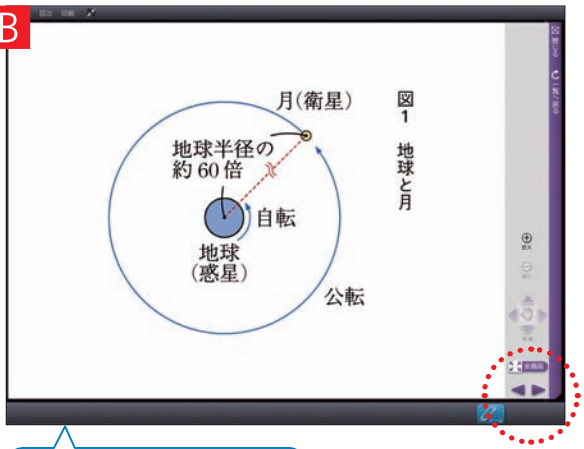
「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ①　図と見出しから，月についてのイメージをもち，本文の内容を予測する。

A



B



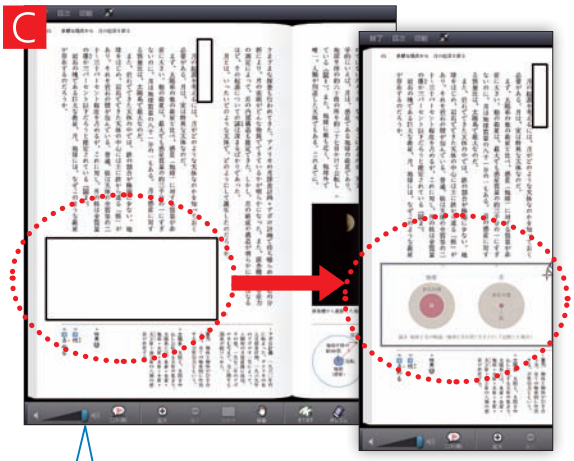
挿絵ウインドウ：（A B）

「月の起源を探る」のように専門的な内容を扱う文章の導入では，教材への抵抗感を減らし，実生活と深く結びつくものとしてとらえさせたい。そこで，宇宙への関心を高めるため，まず，デジタル教科書の画像を見せる活動を取り入れた。

デジタル教科書の挿絵をスライドのように示せる機能を使い，図1〜図4を続けて見せた（A B）。そこで，おおまかに本文の内容を予測させると，2012年の金環日食の体験もあって，本教材への興味を喚起することができ，普段より活発な意見が出せることができた。

第2次 ① 図表の効果的な使われ方に注意し，論理展開を追って文章の内容を理解する。

C



教科書ビュー：ツール（四角枠＋背面）

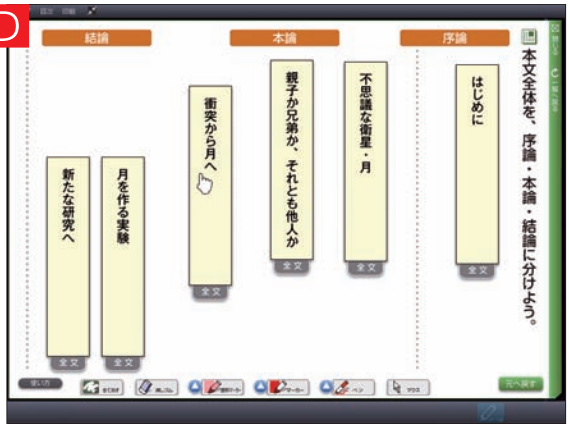
文章だけでは伝わりにくいことも，関連した図が入ることで理解しやすくなるという効果を確認させたい。そのためには，図の有無で，読み取ることができる情報を比較させることが有効である。まず，グループで効果の検討をさせた後，代表者を前に呼んだ。そしてデジタル教科書の図や小見出しを「枠＋背面」で隠した後，「消しゴム」機能の半消しを使いながら，「あった場合」「無かった場合」を説明させた（C）。

生徒の反応

教科書だけでは，「○ページの～に」と口頭で場所を示してから説明するが，デジタル教科書では具体的な場所を画面上に示せたので，とってもわかりやすかった。

第3次 ① 序論・本論・結論の文章構成を確認し，問題提起を探す。

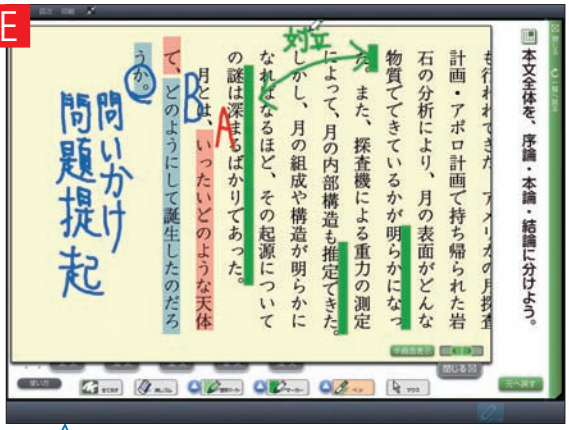
D



まず，参考資料「活動」で，全体構成を序論・本論・結論に分けて確認した（D）。次に，「活動」の全文表示を使い，問題提起の文章を拾い出した。

その際に，デジタル教科書の画面上に線や透明マーカーで色分けしながら線を引き，理解を促した（E）。

E



参考資料ウインドウ：活動（D E）

生徒の反応

序論・本論・結論が1つの画面で確認できたので，わかりやすかった。教科書のどこに注目すればいいか，重要なところはどこかを，デジタル教科書の画面に示してくれたので，わかりやすかった。

国語デジタル教科書を活用した感想

「月の起源を探る」と，デジタル教科書は非常に相性がよいと感じた。透明マーカーや線を使うと，注目させたい表現や語句の説明が丁寧にできるため，自分が伝えたいことをきちんと伝えることができ，隠す機能を使えば，生徒の考えをいろいろと引き出せることもわかった。

3年：文法への扉１

すいかは幾つ必要？

教科書 P.66

学習のねらい

○ 文の成分の順序や構成など，文法についての理解を深め，日常生活や学校生活の中での表現や読解に生かす。

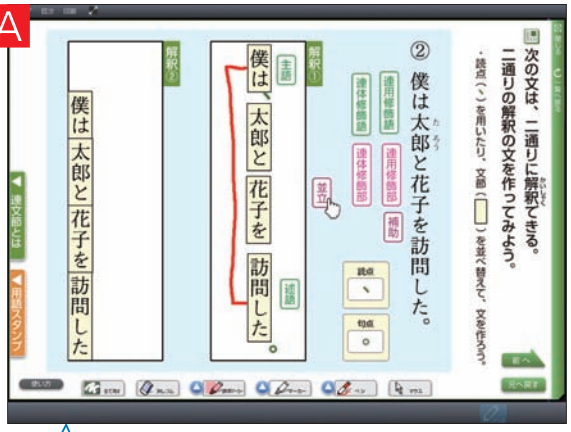
学習の流れ （全2時間）

第1次（1時間）	①「すいかは幾つ必要？」で，なぜ母と子どもの間で誤解が生じたかを考える。 A B
第2次（1時間）	①「文法を生かして伝え合う」で，係り受けと意味のまとまりについて学習する。 C D ②「文法を生かして読み味わう」で，助詞による意味の違いについて学習する。 E F

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次 ①　「すいかは幾つ必要？」で，なぜ母と子どもの間で誤解が生じたかを考える。

A

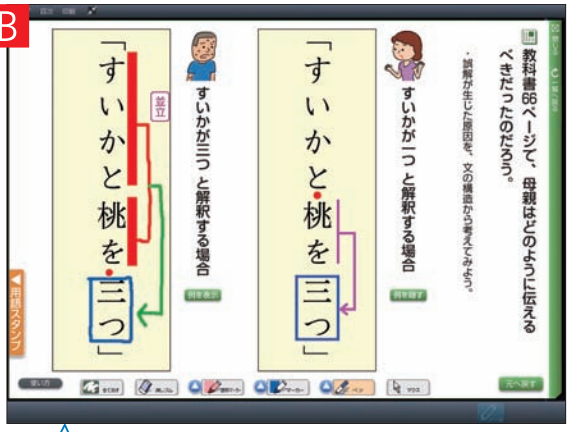


参考資料ウインドウ：
〈1年〉文法②文の組み立て/3.文の組み立て「活動」

まず，文節の係り受けは，1年で学習したことであったため，「デジタル教科書（1年生）」を立ち上げ，教科書ビュー（226ページ）と参考資料で確認した（A）。

次に，確認事項をもとに，「すいかが一つと解釈する場合」，「すいかが三つと解釈する場合」のそれぞれについて，文節の係り受けがどう変わるかを参考資料「活動」を使って考えさせた。「すいかが一つと解釈する場合」，「三つ」の部分には，「桃を」だけが係っていることを，「例を表示」のボタンを押して示した。

B



参考資料ウインドウ：文法への扉１「活動」

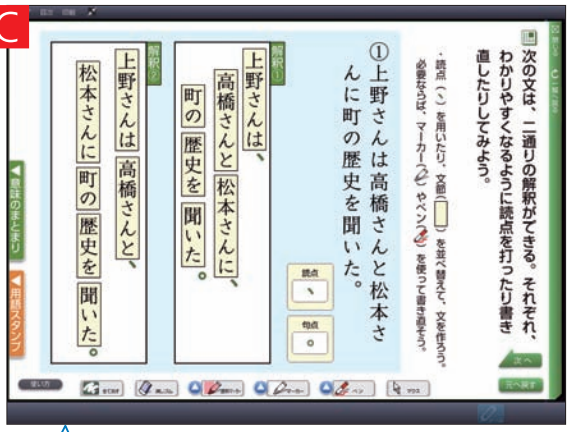
「すいかが一つ」の例にならって，「すいかが三つ」の場合は係り受けがどうなっているかを考えさせた。「例を表示」で出てくるような示し方でもよいし，「すいかと」と「桃を」が並立の関係にあることを「用語スタンプ」を用いて示した上で，両方が「三つ」に係るという示し方でもよいことを確認した（B）。

生徒の反応

文節の係り受けは１年で学習したことで，記憶があいまいなところがあったけど，「デジタル教科書」1年生の教科書がすぐ出てきたから，簡単に確認することができた。

第2次 ①　「文法を生かして伝え合う」で，係り受けと意味のまとまりについて学習する。

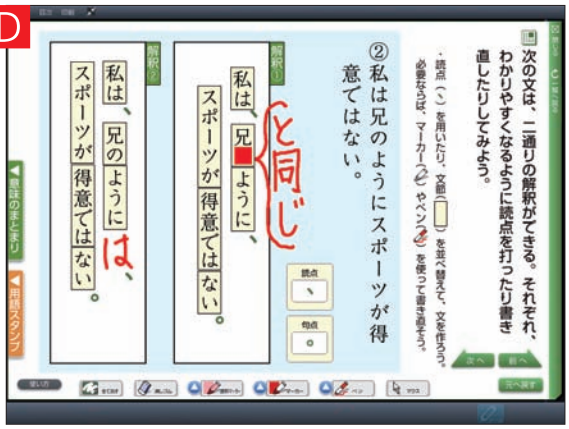
C



参考資料ウインドウ：文法①文法を生かす/
1.文法を活かして伝えあう「活動」(C D)

「意味のまとまり」(215ページ)を，参考資料「活動」で考えさせた。例題①の，「上野さんは～」の文における二通りの解釈は，読点(「、」)を用いることで書き分けることができるが，より

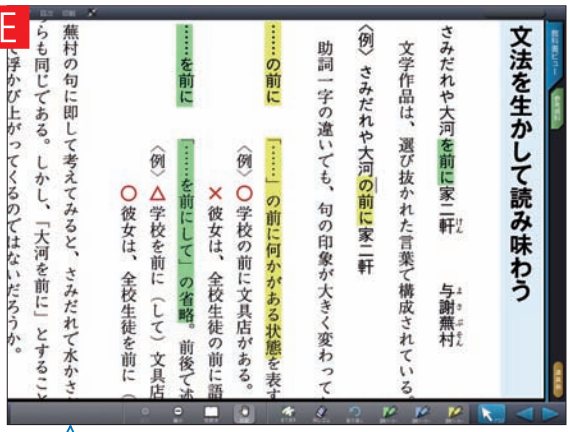
D



わかりやすく示すために，読点の後，行を変えて示した(C)。また例題②の「私は兄のように～」の文も，読点で書き分けることができるが，より意味の違いを鮮明にするために，「兄のように」を「兄と同じように」と書き換えたり，「兄のようには」と「は」を補ったりして示した(D)。

第2次 ②　「文法を生かして読み味わう」で，助詞による意味の違いについて学習する。

E

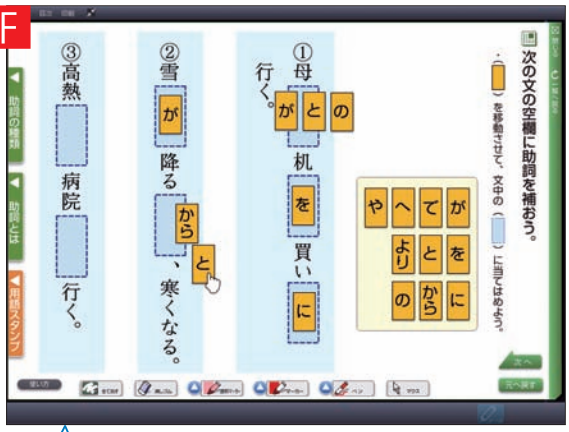


教科書ビュー：ツール(透明マーカー/拡大)

文法を生かして読み味わう(216ページ)の「与謝蕪村」の俳句で，実際の俳句と，「大河を」と，「を」を「の」に変えた場合とでは，どう俳句の印象が変わるか，意見を出し合った。教科書ビューにそれぞれの句の「を」と「の」の部分にマーカーで印をつけて，違いがわかりやすいように示した(E)。

参考資料「活動」で，助詞の使い方によって文章の意味合いが変わってくることを学習した(F)。その際，「助詞とは」のタブ

F



参考資料ウインドウ：文法①文法を生かす/
2.文法を生かして読み味わう「活動」

を引き出して，助詞が，自立語どうしを結び付け，それによってその自立語どうしの関係を変えることを確認した。

生徒の反応

たった1文字，助詞が入れ替わっただけで俳句全体のイメージが変わるということが実感できた。「活動」で，「母」の後の助詞を入れ替えて意味がどう変わるかも，楽しみながら学習できた。

よくある質問

Q&A

光村「デジタル教科書」の活用について,
よく寄せられる質問とその答えをまとめました。

著作権について

Q1：公開授業や教科研究会等で,「デジタル教科書」を使いたいのですが？

A1

通常の授業でご使用される場合は問題ございませんが, それ以外の授業の場合には, 制限がございます。
詳しくは, 目次画面下「お使いになる先生へ」内にあります使用許諾契約書をご確認ください。

著作権者への許諾が必要な場合

次のような使用につきましては,
改めて著作権者への許諾が必要となります。
また, 作品によりましては,
著作権使用料が発生する場合がございます。

- 有料の研究会などで使用する。
- 学校の教育計画に基づかない活動に使用する。
- 次の資料等に「デジタル教科書」の画面を掲載する。
  指導案 / 実践事例集 / 研究会紀要 / ホームページ /
  学校便りや学級通信

著作権保護の観点から法律で禁止されている場合

- 「デジタル教科書」のコピーを第三者に貸与・譲渡する。
- 画面を印刷し, 第三者に貸与・譲渡する。
- 「デジタル教科書」を改変するなどし, 他のソフトウエアなどと組み合わせて自作のコンテンツを作る。
- 図書館設置のパソコンにインストールする等,
  だれもが見られる状態にする。

Q2：生徒が使用するパソコンに, デジタル教科書をインストールして使いたいのですが？

A2

「デジタル教科書」は, 先生が授業でお使いになる場合だけを条件にして, 著作権者の許諾を得ております。
従いまして, 生徒のパソコンにインストールすることはできません。

Q3：「デジタル教科書」をもとにワークシートを作成し, 配布することは可能ですか？

A3

著作権法第35条により, デジタル教科書を利用して通常の授業をされる先生が,
その先生の授業を受ける生徒のために, ワークシートを作成し, 配布することは可能です。
しかし, 第三者への配布は, 35条で許されている範囲を超えますので,
各作品の著作権者の同意がない限り行うことができません。

Q4：教科書改訂が行われたあとも, 継続使用することはできますか？

A4

「デジタル教科書」は, 各著作権者から, 教科書の使用期間と同じ期限で, 使用できる許諾を得ております。
そのため, 教科書の使用期限を超えて継続使用することはできません。

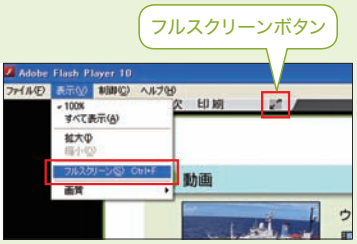
使い方について

Q5：画面を印刷したら，一部が印刷範囲の中に入らないのですが？

A5

「デジタル教科書」で画面を印刷する時の標準設定は，
「原稿サイズがB4，原稿の向きが横」です。
印刷をする際，プリンタドライバの設定がA4等になっている場合は「B4」に，
原稿の向きが縦になっている場合は，「横」に設定を変更してから印刷してください。

Q6：ウインドウのタイトルバーを非表示にできませんか？



A6

「デジタル教科書」起動後に画面左上に表示される
フルスクリーンボタン（フルスクリーン または ）をクリックしてください。
スタンドアロン利用の場合は，タイトルバーの「表示」から
「フルスクリーン」を選択しても非表示にできます。

Q7：印刷用PDFファイルが開かないのですが？

A7

「デジタル教科書」画面の裏に，PDFファイルが開いてしまう場合があります。
その際は，パソコンの「Alt」と「Tab」キーを同時に押すと，画面を切り替えることができます。

Q8：プロジェクタで映像が投影できないのですが？

A8

パソコンの映像出力の設定およびプロジェクタの映像信号入力切替をご確認ください。
確認方法は，パソコンおよびプロジェクタの取扱説明書をご参照ください。

Q9：デジタルテレビに「デジタル教科書」を映した時に，テレビの画面サイズに合わなかったり，画面がきれいに表示されなかったりするのですが？

A9

パソコンの画面をご確認ください。

- パソコンの画面では正常に表示されている場合，デジタルテレビの表示，設定等をご確認ください。
  なお，画面が横に引き伸ばされて表示される場合には，デジタルテレビの表示モードを
  「等倍で表示するモード（DOT BY DOTモードなど）」に切り替えてください。
  また，「デジタル教科書」は，モニターの解像度を1024×768ビット以上，32ビットカラーで
  お使いいただくことを推奨しております。お使いのモニタの設定をご確認ください。
- パソコンの画面でも画面サイズに合っていない場合は，お手数をおかけいたしますが，
  「デジタル教材お客様窓口」（03-3493-5741）までお問い合わせください。

Q10：インターネットに接続しないと，バージョンアップはできないのですか？

A10

お手数をおかけしますが，「デジタル教科書お客様窓口」（03-3493-5741）までご連絡ください。
バージョンアップデータを収録しましたCD-ROMをお送りいたします。

■ 価格

「国語デジタル教科書」中学校版 学校フリーライセンス 1〜3年　　税込価格　各学年 68,250円（本体価格 65,000円）

※「学校フリーライセンス」とは，校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

■ 使用条件

学校などの教育機関で，授業にのみ使用することができます。

また，次のような行為は禁止されています。
- 製品本体やそのコピーを第三者に貸与・譲渡する。
- 製品および製品の画面を利用して作成したデータや印刷物を，第三者に貸与・譲渡する。

■ 動作環境

パソコンのハードディスクにインストールして使用できるほか，
サーバのハードディスクにインストールしてネットワーク経由で使用することができます。

● パソコンの動作環境

OS：Microsoft® Windows® XP/Vista®/7（日本語版）推奨
CPU：Pentium®III 1.5GHz相当以上推奨
メモリ：512MB以上推奨
モニタ：解像度1024×768ドット，32ビットTrue Color以上推奨
サウンド：サウンドボード（内蔵音源を含む）
ハードディスク必要容量：1学年あたり1GB以上
DVD-ROMドライブ：インストール時に使用
必須ソフトウエア：Internet Explorer®7.0以上推奨，Adobe® Flash® Player 10.2以上（ネットワーク経由で利用する場合），
Adobe® Reader™8.0以上（ワークシート等の資料を印刷する場合）

※ Microsoft®，Windows®，Windows Vista®および Internet Explorer®は，マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
※ Pentium®は，Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
※ Adobe®，Adobe Flash®およびAdobe Reader®は，Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

重要：画面を高画質でご覧いただくために，モニタの色を 32 ビット以上に設定することを推奨します。

● サーバ／ネットワークの動作環境（ネットワーク経由で利用する場合）

OS：Windows Server 2003 / Server 2008
必須サービス：HTTPサーバ（IIS/Apache推奨）
ハードディスク必要容量：1学年あたり1GB以上
DVD-ROMドライブ：インストール時に使用
ネットワーク転送速度：実効値で10Mbps以上推奨

写真 「江戸百景」「豊歳五節句遊」「竹取物語」 国立国会図書館所蔵

光村「国語デジタル教科書」実践活用ガイド（平成24年度中学校版）

発行所　光村図書出版株式会社
〒141-8675　東京都品川区上大崎2-19-9
TEL. 03-3493-2111（代表）　03-3493-5741（デジタル教材お客様窓口）　FAX. 03-3493-5483
E-Mail　digital-info@mitsumura-tosho.co.jp　　URL　http://www.mitsumura-tosho.co.jp/

非売品　2012.08